宮司プレス　第二百十四号

彦島八幡宮　宮司ニュース
発行者　彦島八幡宮
宮司　柴田　宜夫
発　行　令和六年　五月二十六日

◇宮司の柴田です。　過日の五月十九日、福浦町に鎮座する、福浦金刀比羅宮の例祭を御奉仕申し上げました。　昔は、五月十日でしたが、紆余曲折がありましたけれども、現在の五月第三日曜日の斎行となったのでした。　先々代宮司、私の祖父にあたりますが、八十二は、祭礼日を変更することなど、あってはならぬと大反対でした。そもそも神様にゆかりのある日時を、生かされている私共が、勝手に変更することを認めなかったのです。　その八十二宮司を説き伏せて、今の日時に変更された当時の世話人の皆様方の御熱意には、頭が下がる思いです。　五年振りにお御輿の御巡幸も復活、御祭神もさぞや、御満悦、お慶びのことと、御同慶に堪えませんでした。

◇さて、彦島では、年六回、お神輿の御巡幸、御神幸祭が斎行されます。　四月の竹の子島金刀比羅宮例祭を皮切りに、福浦の金毘羅さん、来月の恵美須神社例祭、当宮の夏越祭、秋の田の首八幡宮の例祭、当宮の例祭です。　残念ながら、竹の子島の金毘羅さんは、諸般の事情により途絶えています。　宮司プレス百十四号に詳述していますが、彦島の神輿の流儀は、若干の違いがあります。　最初から最後まで、伊勢音頭で、お神輿を練るのは、田の首八幡宮だけです。　竹の子島金刀比羅宮も、伊勢音頭で練るのですが、お神輿が、お還りになるときだけです。　しかも、同じ伊勢音頭なのに、節回しが違います。　もちろん、本家本元の伊勢の神宮の伊勢音頭とも違います。　若かりし頃、竹の子の世話人の方に、「昔は、口伝でしょうから、きっと、当時の方が、音痴だったので、間違って伝わったのでしょうね。」と申し上げたら、「何を云うか。　わしらが、本家本元じゃ。」と叱られてしまいました。若気の至り、猛省していますが、これこそが「おらが村の」、「わしらの」という郷土愛、文化の誇りだと思います。　閑話休題、共通なのは、「ミィーコシジャ　チョーサジャ」という掛け声です。　この「チョーサジャ」は、関西中心の共通の掛け声とされる「ちょうさやようさや」の変形だと考えます。関東は、「わっしょい」が、主流です。　北原白秋作詩の童謡は、東京日枝神社の祭りが題材ですが、やはり、「わっしょい」です。　室町時代までは、「えいさらえいさ」が、全国共通だったようです。　江戸時代中期の人形浄瑠璃、いわゆる、義太夫節に、お神輿の行列にともなう掛け声として「ちょうさやようさ」が、用いられ、関西中心に広まったようです。　それが、彦島では、お国なまりも加味されて、「ミィーコシジャー　チョウサジャ」と定着したのではないでしょうか。前述の伊勢音頭の節回しと共に、大切に後世に伝えたい伝統の掛け声です。

◇福浦の金毘羅さんの階段は、二百六十九段あります。　しかも、勾配、いわゆる、‰（水平距離千メートルあたりの高低、勾配のこと）が、日本一と地元の人は、豪語していらっしゃいます。　一段一段数えな

がら登りますと、昔からの言い伝えで、「こんぴら狐」が出没して、いたずらをされて、二百六十九段にはならないそうです。　心臓破りの階段、息が上がってしまって、数を間違えてしまうのではないでしょうか。実は、幕末に吉田松陰先生も、海防調査で登拝されたことが、「廻浦記略」に記録されています。かの松陰先生と同じ景色を共有していると思えば、疲れも心地よいものとなるかもしれません。　命がけは、少し大袈裟ですが、その甲斐あって、眺望は、最高です。　長府毛利藩の儒学者である南陵小田圭が、碑文に認めたように、冨観台といわれただけのことはあります。　赤色の若戸大橋も見えました。　地元の方も、「今日は、珍しく視界良好、マンがええ(縁起がいいことです)」と満面の笑みでした。

◇祭には、およそ三つの意味があります。一つは、祭礼の日まで、心を込めて準備をし、その日を「待つ」こと。　そして、そのためには、神様に、真心こめて御奉仕しなければなりませんので、「奉り、心から、まつらふ(従うこと)」です。　さらに、神様と私共が、釣り合っていること、神様のお陰で日々健やかな暮らしを感謝できる、「真釣り」です。　全ての神事が終了したのが、午後二時でした。　午後三時からの直会は、場所を公会堂に移して、午後四時半までお付き合いさせていただきました。もう一つ、祭の意味がありました。　その四つめは、「しもおうたぁ、ああすればよかった」、「こうすりゃよかった」、「後の祭り」であります。

◇英国の詩人の詩に、「偶然は神様のペンネーム」とあるそうです。　お世話の方々と共に、御先祖様方の思い、この福浦の歴史と文化につながり、「もとほり」、原点に立ち返りながら、これからの幸せにつながろうという祈りを共有できたお祭りでした。　まさに、神社神道はつながりの宗教、「御縁は神様のペンネーム」を実感させられた祭事でした。

◇世相は、円安が続き、値上げ等先行き不安がつのるばかりの日々です。　松下幸之助さんは、「ないものを嘆くより　あるものを活かせ」と仰いました。　そのためには、生かされて生きていることに感謝を捧げつつ、謙虚に自分を見つめ直し、「ないものねだり」ではなく、「あるものさがし」で、心豊かな日々を過ごしたいものです。御自愛ください。

◇五月の祭典行事報告

▼月次祭

◆本宮　＊五月一日、十五日

◆貴布祢神社　＊五月一日

▼塩釜神社例祭　＊五月三日

▼花手水実施　＊五月三日～

▼福浦金刀比羅宮例祭　＊五月十九日

▼朝粥会　＊五月二十一日

◇五月宮司動静（予定も含む）

▼神社関係団体

◆早起会参拝　＊五月一日

◆敬神婦人会総会　＊五月十二日

◆奉賛会会計監査　＊五月二十七日

◆敬神婦人会研修旅行　＊五月二十九日

◆奉賛会役員会　＊五月三十一日

▼神社庁関係

◆山口県神社庁教化委員会　＊五月七日

◆下関青年神職会参拝　＊五月八日

◆山口県神社庁役員会　＊五月十五日

▼美祢社会復帰促進センター教誨師活動

◆集合教誨（女子）　＊五月二十日

▼自治会、学校関係、その他

◆玄洋校区挨拶運動　＊五月十日

◆彦島まちづくり協議会総会　＊五月二十一日

◆迫町自治会役員会　＊五月二十二日